

令和4年度 都道府県医師会 勤務医担当理事連絡協議会

ーコロナ禍での勤務医の勤務環境の問題点、全国における勤務医の
意見集約に望まれることについて協議ー

と き 令和4年5月27日（金） 午後2時

ところ 日本医師会館 Web配信



広島県医師会	常任理事	中西	敏夫
広島県医師会	常任理事	西野	繁樹
広島県医師会	常任理事	平川	治男



日本医師会勤務医委員会の渡辺憲委員長（左）と若林久男委員（右）

コロナ禍での勤務医の働き方ならびに全国における勤務医の意見集約について、各地域やブロックでの現状を把握し、今後の課題を把握検討するため、標記協議会が令和4年5月27日（金）、日本医師会館からWeb配信により開催された。当日は各都道府県医師会より担当役員および事務局が参加した。

橋本省日本医師会常任理事の司会で開会し、「令和4年度全国医師会勤務医部会連絡協議会」を担当する愛知県医師会から準備状況などについて報告後、各議題について協議した。

以下、概要を記す。

挨拶（要旨）

日本医師会会長 中川 俊男（当時）

4月に日本医師会が医療機関勤務環境評価センターの指定を受けた。日本医師会では医師の

健康への配慮と地域医療の連続性の両立に向けて努力を続けていく所存である。また、令和2年12月11日の第1回勤務医委員会における「勤務医の意見を集約する方法、および勤務医が日本医師会に望むもの」との諮問に対し、令和4

年5月に勤務医委員会(渡辺憲委員長)より答申を受け取った。勤務医委員会の答申を真摯に受け止め、勤務医の先生方のご意見を幅広く拾っていきけるよう努力したい。ご参集の先生方の一層のご理解とご協力をお願いする。

全国医師会勤務医部会連絡協議会について

京都府医師会の上田朋宏理事より、「令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会」の報告があった後、「令和4年度全国医師会勤務医部会連絡協議会」を担当する愛知県医師会の浦田士郎理事より挨拶があった。メインテーマ「医療新時代を切り開く勤務医の矜持〜コロナを克(こ)えて〜」を掲げ、令和4年10月15日(土)にANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋(名古屋市)にて参集で開催する旨の説明があった。

協 議

(1) コロナ禍での勤務医の働く環境課題の整理と、今後のポストコロナ・ウイズコロナ時代を見据えた勤務医の働き方改革

香川県医師会副会長、

日本医師会勤務医委員会委員 若林 久男

われわれは皆同じ勤務医とはいえ、所属する病院の地域性や地域での機能、また同じ院内でも診療科や職位・役割によって、コロナ禍での負担や課題が異なっていた。

コロナ禍を経験し、今後も対応の継続が求められる現状で、医師の働き方改革や地域医療構想が進められる。医師の偏在対策の効果もまだ見えず、地方では医師が不足している。病院の機能分化や役割分担がより進められると考えられ、地域性やその役割、もしくは診療科や立場に応じて、勤務医の働き方における課題はより多様になってくると考えられる。

発表後、本会の西野繁樹常任理事より広島県でのコロナ対応を紹介し、空床確保のため余力が出た部署の勤務医がオンライン診療センターやワクチン接種などでサポートができるのに病院が難色を示し勤務医の立場としては動けないケースがある、医療ニーズのマッチングを考える活動も勤務医委員会として必要になるのではと発言があった。

(2) 全国における勤務医の意見集約に望まれること〜全国8医師会ブロックにおける議論の活性化への提言〜

鳥取県医師会会長、

日本医師会勤務医委員会委員長 渡辺 憲

勤務医を取り巻く喫緊の課題として、コロナ禍で浮かび上がった過重労働、医師の働き方改革、新専門医制度と地域医療(医師の地域・診療科における偏在問題も含め)などが上げられる。都道府県医師会および郡市区等医師会における勤務医部会(委員会)には喫緊の課題へ向けての議論の活性化、構成員の多様化への工夫、議論を医療政策へつなげるための医師会会務への提言や日本医師会勤務医委員会ならびに全国医師会勤務医部会連絡協議会との連携、全国8ブロックとの双方向の協議などが求められる。

各都道府県における勤務医部会、勤務医委員会などにおいては一層の活性化が求められる中、全国の各ブロックにおいて、いま一度、勤務医部会・委員会の設立についてご協議いただきたい。また、日本医師会勤務医委員会は全国8ブロックにおける勤務医の意見集約の受け皿にあることで、日本医師会ならびに都道府県医師会双方への『変化の触媒』となることができ、ひいては、勤務医全体のエンパワメントに資することができると思われる。

発表後、本会の中西敏夫常任理事より、勤務医の医師会入会を促進したいならば、勤務医の先生が活躍できる場所を与えることが重要である。もし可能であれば日本医師会の代議員はある一定数は勤務医にするなど日本医師会へ提言していただきたいと要望した。

担当理事コメント

勤務医委員会の答申をあらためて読んでみました。25ページの答申書です。これまでのさまざまな意見が集約化されています。喫緊の問題としては「コロナ禍で浮かび上がった地域医療と勤務環境の課題へ求められる対応」です。今回、香川県医師会副会長の若林先生より勤務医の置かれている状況、過重労働や地域医療構想、医師不足・偏在問題など幅広く問題提起がされました。また鳥取県医師会長の渡辺委員長の発言は勤務医の意見集約の方法として「全国8ブロック医師会における勤務医部会・委員会の設立」が取り上げられております。答申書の最後に開業医と勤務医の垣根を取り払った組織づく

り、勤務医を取り巻く諸問題に取り組む中で医師会組織自体が徐々に変容する時期にさしかかっていると結ばれています。ぜひ先生方もこ

の答申書をご一読ください。日本医師会のホームページ、メンバーズルームから参照可能です。
(中西 敏夫)

作品
募集中



患者さんとの思い出や、ご自身あるいはご家族の闘病経験、介護や生命の誕生にまつわるお話、あるいは生命の輝く瞬間を捉えた写真を募集いたします。写真は人間、動物、自然など被写体は自由です。ぜひ、ご応募ください。

【応募規定】

●フォト部門

- ・応募作品はご本人撮影の未発表作品で2019年6月1日以降に撮影したものに限りします。
- ・作品のプリントサイズは、キャビネ判(2L)とします。
- ・応募は1人3点までに限りします。

●エッセー部門

- ・一般・中高生の部：2,000字(原稿用紙1~5枚)以内
- ・小学生の部：1,200字(原稿用紙1~3枚)以内
- ※パソコン、ワープロ使用の場合、1ページ400字(20字×20行)

●応募方法

- ・ウェブの場合は公式ホームページより応募してください。
- ・郵送の場合は、作品と応募用紙を以下の住所に送ってください。
- ※応募用紙は公式ホームページよりダウンロードいただけます。



【締切】 2022年10月5日(水)必着

【作品送付先】 〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル3階
「生命を見つめるフォト&エッセー」係

【問い合わせ】

読売新聞東京本社 次世代事業部「生命を見つめるフォト&エッセー」事務局

TEL: 03-3216-8598 (平日午前10時~午後5時)

<公式ホームページ> <https://jigyoku.yomiuri.co.jp/photo-essay/>